

Wesley Hall News



高等部入学式
(2005年4月)

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No. 88

2006. 4. 1.

特集 入学

説教「人間の大きさ」 東方 敬信	2
●新入生へのメッセージ		
青山学院理事長 松澤 建	4
幼稚園 川島 祥子/鈴木 法子	5
初等部 古川 武治/かんばら まゆこ	6
中等部 敷島 洋一/石井健太郎	7
高等部 西川 良三/金子 直史	8
女子短期大学 前之園幸一郎/野村 佳世	9
大学 武藤 元昭/田村 寿子	10
●キリスト教図書紹介 津和野への旅—長崎クリスチানের受難	木村 光彦	11
●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その15	氣賀 健生	12
●私の教会 日本長老教会 井萩福音キリスト教会	河見 誠	14
●宗教センターだより	15

説教

「人間の大きさ」

Ⅱコリント5:17；Ⅰヨハネ2:8；ルカ1:78,79



東方 敬信

青山学院宗教部長

今の時代の様子は、高度情報社会などといわれる。今年の二月に開催されたトリノ・オリンピックでもリアルタイムでテレビは競技の結果を私たちに伝えてくれた。その意味で、高度情報社会は、「早い情報」をどんどん私たちに届けてくれる。これから始まろうとしているFIFAのサッカー・ワールドカップも、テレビによって試合の内容を素早く送ってくることになるだろう。しかし、トリノ・オリンピックでは、日本選手の実力を冷静に分析しないで、盛り上げのような人気をもちあげる事前報道が目についたと言われている。これは「早くて軽い情報」が社会の表面を滑っていたと言わざるを得ない。しかし、私たちの住んでいる世界は複雑な深層をもっていて、それを洞察するには時間がかかるはずである。その意味では、「遅い情報」も重要である。何回も取材し、証拠や証言を積み上げて結論をだすような時間が必要である。しかし、私たちの高度情報社会は、「深くて遅い情報」より早くて軽い「流行」に弱いのではないだろうか。

二十世紀のはじめにドイツで活躍した社会学者G・ジンメルは、『流行』という論文を書いた。によると、流行は、つねに上層階級と下層階級、あるいは言い方を変えれば文化の前衛と後衛の間で繰り返される「追跡現象」である。つまり、流行は上層の少数者によってうみだされ、それが社会へと流れるにしたがって多くの大衆をひきつける。この流れは、追従者が、新奇なものを「模倣したい」という欲望によって起こる。文化の前衛にいる人間が「みせびらかし」に成功すると、文化の後衛にいる追従者が模倣を始める。逆に言えば、文化の前衛は、たえず模倣して大衆化しようとする人々から追いかけて「逃げて」いなければならない。そこで生まれるのは、逃げる方も追跡する方も珍奇なものを求める「せわしい生活態度」である。これを私たちは、表層文化の追跡ゲームということができる。これに対して、今求められているのは、複雑な社会の深層を洞

察する「深くて遅い情報」ではないだろうか。

アリストテレスは、安定した人格をもった存在感のある人物を人間らしい姿として描いた。それが「マグナニマス・パーソン」である。マグはマグカップで分かるが「大きい」という意味である。ひとこと言えば、「心の大きな人」となるが、その人物は、ゆつくりと歩き、言葉も少なく落ち着いた話す人である。とるに足りない些末なことには揺さぶられない存在感のある大きな人物である。彼は、次のように言われている。「また彼は噂ずきではない。彼は自分自身についても他のひとについても語らないであろう。けだし彼は、自分が賞賛されようとか他人が非難されるとかというようなことに関心を有しないからである。だからといって、しかし、むやみにひとを賞賛するのでもない。だからこそ彼はまた、たとえ敵方に対してであっても悪声を放たないひとである。」ここに表現されているのは、深く物事を考え落ち着いた「深くて遅い情報」によって生きている人ではないだろうか。

キリストにおける人間の大きさ

聖書には、「深くて遅い情報」がある。また別の角度から存在感のある人物を描こうとする。キリスト者とはイエス・キリストとの友情に生きようとする人のことである。聖書に次のような言葉がある。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」(Ⅱコリント5:17)。イエス・キリストとの友情に生きる者は、新しい人生に生きている、と言うのである。また別の箇所では、イエス・キリストの出現について、「闇が去って、既にまことの光が輝いている」(Ⅰヨハネ2:8)と宣言している。つまり、イエス・キリストとの友情に生きる所には、全く新しい世界が始まっている。

先日、ある金属関係の会社の秘書室の人に会う機会が与えられた。この方は、ある大学で学

んでいるときキリスト教の信仰にはいられ、その信仰をつらぬいて生きてこられた。営業も経理も人事もつとめた方であるが、何が日本の社会でたいへんでしたかと尋ねると、即座に人間関係ですと答えられた。どこに行っても人間関係は存在する。その人間関係が信頼と愛に満ちる関係になるなら、どんなに素晴らしいことであろうか。逆に、その人間関係が冷たくてトゲトゲしいなら大変なことになる。その方はさらに付け加えて、密かな仕方で心にイエス・キリストとの友情を保っていると言った。安定した人間関係に生きることができ、人々から信頼されてきた、と告白された。

それでは、一体どこに新しさがあるのか。それを三つの点で考えてみよう。第一に、イエス・キリストとの友情によって、わたしたちが愛される経験を初めてするということである。わたしたちが主イエスと出会うことは、まずわたしたちが愛され受け入れられたということである。それまでは、自分が不安であり、世間にどのように認められるかを気にしていたが、いまや既に認められたものであり、病的に人に認められようと欲望する必要がなくなった。そうなるわたしたちは、親に愛され、兄弟に愛され、友人に愛されていることを認めて感謝できる。イエス・キリストの友情で経験できる大きな愛は、それまで本当のところ誰も愛を知らなかったというほど大きな愛である。それは、イエス・キリストが十字架について、見返りを求めず、裏切った弟子も含めて赦す愛を示されたからである。それはもう「絶対的愛」といってよい。このような愛を知るときに、わたしたちの不安は消えていく。この第一のことは、人生に土台が与えられることである。

第二に、わたしたちは聖書で愛の広さを知る。旧約聖書で隣人というのは、ユダヤ人同士のことであった。民族の中の閉ざされた友情であった。つまり、同類が親しくなることである。それに対してキリストの愛は、あの他民族であるサマリア人がユダヤ人を助けた隣人愛の譬えのように民族性を超える。それは、あえて言えば異質なものをうけいれる愛である。グローバリゼーションと言われる時代には、これが必要ではないだろうか。他民族との積極的なかわり、性差を超えるかわり、身体的障害を超えるかわり。社会に出て人間の大きさという場合、それは異質な存在を受け入れる心の広さを持っている生き方ではないだろうか。

第三に、キリストとの友情に芽生える新しい愛は、赦しの愛であるので、しっかりと「持続をする愛」といってよいであろう。そこにはすぐに切れてしまわない忍耐が育まれる。ともす

ると、私達人間は瞬間的には気に入る、第一印象で素晴らしいと思うが、しだいにその人が分かってくると嫌になることも起こってくる。しかしイエス・キリストは、弟子たちの欠点も弱点も分かっているが、忍耐をもって育て続けられた。私たちもその忍耐力が与えられるなら、そこに粘り強く新しい世界を作ろうとする本当の創造性が生まれてくる。

この三点が新しいといえる。しかし、もう一度、それらはイエス・キリストとの友情に含まれているといっておきたい。聖書には「高い所からあけぼのの光がわれらを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らを平和の道に導く」(ルカ 1:78,79) とある。本当の愛の世界を知らない生き方は、自分の周囲に愛がなくて闇が覆ってしまうだけではなく、自分の中にも闇がさしてしまう。太陽の光りのとどかない深い海に住んでいる深海魚は、目の機能そのものも退化してしまうと言われている。しかし、そこにキリストとの友情は、光を与えるのである。学校礼拝の時間はそのような聖なる時である。

愛の大きさの実例

ジーンズで有名なリーヴァイス社が、バングラデッシュのダッカに新しい工場を建設した。人件費はアメリカの六分の一で、現地で安いジーンズが順調に伸びていった。しかし、あるときロバート・ハース社長のもとに、現地からそのバングラデッシュの下請け業者のもとで働いている労働者の大半が11歳から13歳の少女であり、多くが学校を退学して働きに来ているという報告がきた。現地の状況は、その少女達が一家の収入を支えており、喜んで働きに来ている、そしてその地域には仕事があるので活性が来ている、教育や学歴にあまりこだわらない場所なので、学校にいけないことは苦になっていないということであった。地域の人も働くことが出来て助かっているし、子供達も喜んでいる。ロバート・ハース社長は問題が生じた地域からは、必ず撤退する方針であった。あなたが責任者ならどうするだろうか。驚くべきことに、このとき彼は、昼間にその子供達を学校に通わせ、給料はそのまま出す決断をした。つまり、少女達は給料をもらいながら工場ではなく、学校に卒業するまで通って、卒業してから働くことになったのである。もちろん、そんな経営方針に反対する株主もいたが、リーヴァイス社はその株主の株を買って取ってその方針を買ったのである。これは、国際的な企業の思い切った愛の大きさによる経営方針ではないだろうか。

父なる神様が共におられる

松澤 建

青山学院理事長



新入生の皆さん、ご入園・ご入学おめでとうございます。また、ご父母の皆様方には、お子様のご入園・ご入学をお慶び申し上げますとともに、大切なお子様のために青山学院をお選びくださいましたことに、学校法人青山学院を代表する者として、心からの感謝を申し上げます。

青山学院は、明治初期に米国メソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められた三つの学校を、その創立の源流としています。それは、1874（明治7）年にドーラ・E・スーンメーカー女史によって麻布に開校された「女子小学校」、1878（明治11）年にジュリアス・ソーパー博士によって築地に開校された「耕教学舎」、1879（明治12）年にロバート・S・マクレイ博士によって横浜山手に開校された「美會神学校」です。これらの三つの小さな源流が、変遷を重ねながら現在の青山学院132年目の大きな流れへと成長してきました。

青山学院の長い歴史を顧みるとき、順調に発展してきた時期だけではなく、そこには大きな苦難の時代もありました。スーンメーカー女史が女子小学校を始めた当時の日本は、「女に教育など必要ない」とする男尊女卑の風潮が著しかったので、女子生徒を集めることは非常に困難でした。明治期には帝国憲法と教育勅語の発布による思想

統一体制の確立などによって、また、大正から昭和期には国家主義・軍国主義の台頭などによって、神の前における平等と平和を説くキリスト教は否定され、学校では宗教教育を行なうことが禁じられるなど、青山学院もキリスト教学校としての存立の危機に立たされました。また、関東大震災や太平洋戦争によって、キャンパス内の建物のほとんどが倒壊・焼失するという壊滅的な打撃を受け、その復興には莫大な時間と資金を必要としました。しかし、どのような苦難の時にも、創立者はじめ諸先達はキリスト教信仰に基づく「建学の精神」を貫く道を選び、多くの方々の祈りと経済的な支援にも支えられ、今日の青山学院の礎を築いてくださいました。彼らは、青山学院の歩みの中に「父なる神様が共におられる」ことを確信し、どんな艱難をも献身的な努力によって克服してきました。

聖書には、「死の陰の谷を行くときもわたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」（詩編第23編4節）、また「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ」（ヨシヤ記第1章5、6節）とあります。どうか新入生の皆さんは、それぞれの学校での学びの中で青山学院の歴史を更に深く知り、「父なる神様が共におられる」ということを具体的に学んでください。そして父なる神様が、あなたがどんなにつらいことや困難なことに出会っても、いつもあなたの隣に座り、あなたと一緒に歩いてくださり、また歩けなくなった時にはあなたを背負い、あなたを恵みをもって生かし、愛してくださいと約束しておられることを忘れないでください。

この青山学院を建て、これまで守り導いてくださった天の父なる神様は、その時々私たちに相応しい道を必ず開いてくださいます。皆さんの青山学院での学校生活の上に神様の恵みと祝福が豊かにありますように、心からお祈りしています。



神さまのお庭で

川島祥子

幼稚園主事



「ようちえんて ようちえんて どんなどこ わたしはしってるようちえんはね わたしたちがたのしくあそぶかみさまのちいさなおにわなの」(作詞・作曲：浜口庫之助) 1981年に幼稚園創立25周年の記念でつくられた「神様のお庭」という歌です。四月に入園される子どもたちをお迎えするにあたり、これからの三年間自然の恵みに溢れたお庭で子どもたちが友だちや保育者と出会い、存分に遊び、神さまの愛に触れイエス様の恵みに満たされて過ごされるように願ってやみません。

幼稚園の保育の目標の中に次の箇所があります。「神様やまわりの人々に愛される体験の中で、祈りのうちに生活する。」「感謝と喜びのうちに生活し、まわりの人々に対する信頼感・思いやりの心をもつ。」これらの根底にあるのは、神様への信頼ではないかと思うのです。ところで、人は愛されて初めて自分を大切に、他者を大切にできるのです。それならば、一番最初の、自分は愛されなくても人を愛する「存在」がなければなりません。2月20日に幼稚園のご講演で来園して下さった渡辺和子先生(ノートルダム清心女子大学理事長)が教えてくださったことですが、その「存在」が神様なのだということなのです。

「幼稚園は神さまのいるところだよ」と子どもたちが神様の愛を心にしっかり感じ人として生きる上で大切なことを心に養っていかれるようにと、祈りつつ教職員一同保育を進めていきたいと思えます。

新しい仲間へのメッセージ

鈴木法子

幼稚園教諭



今年も40名の新入園児をお迎えました。「新しく幼稚園に入る小さい人たちに何かアドバイスは何かあるかしら？」と、子どもたちに尋ねてみました。

——もしもママと離れて淋しくなったら？
「先生と一緒にいれば大丈夫。年少さんには、先生は優しいから大丈夫。」(…なるほど)
「大きい組の人たちに一緒に遊んでもらうといいかもしれない。」

「フェレットとか兎とか亀とか動物を見ていると悲しくなくなるよ。」

「お祈りすれば、心配じゃなくなるの。」

——幼稚園に入ったばかりの時、どんなことが楽しかった？

「ままごと！きれいなスカートがいっぱいあって楽しかった。」

「おやつが嬉しかった。」

「みんなで絵本を読むときが楽しかった。」

「ブランコにいっぱい乗れて嬉しかった。」

卒園間近の年長組の子どもたちのアドバイス、参考になりましたでしょうか。

新しく幼稚園に入った子どもたちは、期待と不安を胸に毎日を過ごしていきませんが、それは保護者の方々も同様だと思います。新たに幼稚園の仲間になった方々が安心して園での生活を送ることができるよう、教職員一同、心を砕いてまいります。

ご入園、おめでとうございます。



初等部 入学にあたって

古川 武治

初等部教諭



小学校生活6年間のうち、一番大切な学年は？と聞かれたら、私はすぐ様、1年生と答えるでしょう。それは、教師の目から見ただけでなく、保護者の目から見ても同じと言えるのではないのでしょうか(しかし、子どもたちにとっては、どの学年も同じくらい大切に思っていてほしいのが望みですが……)。学校・家庭生活を振り返れば、初等部6年間は入学した1学年の1年間に全ての基礎基本が凝縮されていると思います。

それは子どもの目から見ていくと分かります。1年生では神様との出会い、キリスト教との出会いがあります。そして初等部生活の流れを知ります。礼拝に始まり、礼拝に終わる。いつも神様にお祈りする大切さを学んでいきます。それが全く堅苦しくなく、いつのまにか体に浸透していくように。火曜日の朝の祈祷会には1年生の児童のほとんどが足を運びます。そしていつのまにか食事や帰りのお祈りが上手になっていきます。

生活では、登下校の仕方、学校に来てすること、授業の受け方、休み時間、学習の基礎基本、給食、ランチオン、掃除、放課後遊び、宿泊行事、子ども社会などなど、いつの間にか初等部の約束と言われるものを先生方から、お兄さんお姉さんから学んでどんどん吸収していくのが1年生です。本当に生活の基礎基本を学ぶのです。最初が肝心。それは子どもに携わる保護者や教師も同様だと思います。

しょとうぶに入って

かんばら まゆこ

2年



わたしはしょとうぶ生になれてとてもうれいす。それは、入学するまえから、おかあさんがしょとうぶのたのしいはなしをおしえてくれたたので、しょとうぶにあこがれていたからす。それと、しょとうぶに入ってからいつもたのしいことのをれんぞくだからす。

しょとうぶではまい日れいはいがあります。わたしがーばんさいしょにおほえたさんびかは「うるわしきあさも」で、さいしょにおほえたせいしょのみことばは「しんこうをたてとしてとりなさい」です。わたしはいえがとおいので、あさが早く、さいしょのころはれいはいのときねむかつたけど、いまではおざわ先生がイエスさまのことをわかりやすくおしえてくださったおかげで、れいはいがたいせつなこともよくわかりました。

しょとうぶの一年生は二年生と六年生のパートナーさんがいます。二年生のパートナーさんからーばんさいしょに、「しょとうぶはたのしいよ」とおしえてもらいました。六年生のパートナーさんからは、よう上小学校のお見おくりについて、まが玉のおみやげをもらいました。わたしも早く二年生になって一年生のパートナーさんにしょとうぶのたのしいことをおしえてあげたいとおもいます。



Carpe Diem

敷島 洋一

中部部教諭



新入生の皆さん、中部部へのご入学おめでとうございます。学校は出会いの場です。たまたまキリスト教学校に入ったから、たまたま席が近かったから、たまたまその行事に参加したから、そういうさまざまな偶然が人を左右することがあります。そして大きくなったとき、この友達に出会わなかったら、この先生に出会わなかったら違う生き方をしていたかもしれないと思えることがあると思います。(大人になっても何かに出会うこと、誰かに出会うことで歩む方向が変えられることもあるのですが。) 出会いは自分から選んだり作り出すことはできません。与えられるもの、向こうからやってくるものです。何かを求めて歩むとき、別のさらに豊かなものが与えられる。それが出会いだと思います。

そのために大切なのは今を大切にすることです。ラテン語にカーペ・ディーエム (Carpe Diem: 英語では Seize the Day) という言葉があります。その日を掴め、今を生きよという意味です。入学した青山学院で皆さんが一日一日を一杯に生活することで、手応えのある実り多い3年間を過ごしてほしいと願っています。そしてその間によき友や師と出会い、また出会う人を通してイエス・キリストと出会うようお祈りしています。

中部部一年生の皆さんへ

石井 健太郎

3年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんがこれから過ごす中部部生活のほんの一部をご紹介します。

今、皆さんが一番気になっているのは友達のことではないかと思います。「いい学校生活にはいい友ありき」といいますが、きつとすぐにいい友達がたくさんできるでしょう。それは、入学式直後にオリエンテーション・キャンプがあるからです。公立小学校出身の私も、この行事で中部部生活初めての友達ができました。

授業についても気になっていることでしょう。授業は特別教室で行うものも多くあり、初めは戸惑ってしまう人もいるでしょう。特別教室には実験の器具やパソコンなどが用意されている教室もあり、一味違った授業を受けることもできます。また、それぞれの教科の先生方がわかりやすく、面白い授業をさせていただきます(だからといってハメを外してはいけません)。

そして、中部部の大きな特徴は毎日の礼拝があることです。礼拝で聴く聖書やお話には、勇気づけられるものや、思わず反省してしまうものなどいろいろありますが、日頃の自分を見直す良い機会になるはずです。

少し不安はなくなりましたか？ きつと、みなさんにとって、「喜びあり、涙あり、驚きあり」の充実した中部部生活になることでしよう。私たち上級生も皆さんと関われることを心待ちにしています。中部部生全員で楽しい生活が送れることを願っています。



高等部新入生、 及びその保護者の皆様へ

西川 良三

高等部教諭



「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし

あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔を向けて

あなたに平安を賜るように。」

(民数記 6:24-26)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご入学、心よりお祝い申し上げます。

高等部では、中等部から進学してこられた方、そして推薦入試、帰国生入試、及び一般入試を経て入ってこられた方が一緒に学ぶこととなりますが、様々な背景を持った方々が共に学校生活を送る中で、お互いの違いからそれぞれの良い点を学びあって貴重な「出会い」を経験できれば幸いと思います。

外部中学から入学してこられた方々の中には、とくに「キリスト教との出会い」というものに強い印象を持たれる方もいることと思います。礼拝や、聖書を学ぶこと、そしていくつかある宗教行事は多くの方々には初めてのことでしょうが、青山学院のバックボーンであるキリスト教信仰について知ること、この学校で学ぶ様々な事を人生の中でどう生かしていくかという事につながってきますので、是非大事にしていただきたいと思います。

新入生の皆さんは、希望と期待と不安の入り混じった気持ちで入学を迎えられていることと思いますが、神様がこれから歩む道を照らし、祝福のうちに高等部での生活を送られることをお祈り申し上げます。

新入生のみなさんへ

金子 直史

2年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。青山学院高等部へようこそ。在校生一同、新一年生の皆さんを心から歓迎します。

皆さんは、高等部入学に当たり、期待に胸を膨らませると共に、様々な不安を感じていることと思います。とくに外部進学 of 皆さんは、青学の校風に馴染めるか、心許なく思っているかもしれません。「キリスト教信仰に基づく教育」という言葉を聞くと、何か非常に堅苦しいものを想像するかもしれませんが、実際には校則も緩やかで、生徒の自主性が尊重されています。僕自身、信者ではありませんが、青学の教育方針に違和感を持ったことはありません。皆さんも、すぐ青学の校風に溶け込むことができるでしょう。クラス内の親睦も HR デーやバレーボール大会を通じて、あっという間に深まります。さらに、クラブも豊富です。かくいう僕は聖歌隊に所属しています。聖歌隊といっても、賛美歌だけでなく色々な歌に挑戦しながらとても楽しく活動しています。是非一度、練習を覗きにきてください。聖歌隊に限らず、部活動は、他学年との交流を深め、高等部生活を一層充実させてくれます。クラスやクラブでの活動に積極的に参加していくうちに、不安などすぐ消え去るでしょうし、楽しい日々を過ごせるよう、先生方も喜んで力を貸してくれるはずです。どうぞ高等部での生活を思い切りエンジョイしてください。



新入生のみなさんへ

前之園 幸一郎

女子短期大学学長



新入生の皆さんは、本学の教育がキリスト教信仰にもとづいて行われていることはすでにご承知でしょう。青山学院は、今から132年前の1874（明治7）年に米国の女性宣教師ミス・ドーラ・スクーンメーカーによって設立された「女子小学校」を源流として発展してきました。その建学の精神と伝統は今日の青山学院の教育理念の根底を貫いております。「青山学院教育方針」の中に「愛と奉仕の精神」をもって人と社会に対する責任を「進んで果たす」人間の形成が目標の一つとして掲げられております。

ここで教育目標とされている人間は、聖書にある「心の貧しい人々は幸いである」（マタイ5:3）の「心の貧しい人々」ではないかと私は考えています。この「貧しい人々」は『ウルガータ』（ラテン語訳聖書）では、「魂において物乞いである者たちは幸いである」“*beati pauperis spiritu*”とあります。つまり、「貧しい人々」とは「貧乏な人々」という意味ではありません。神様が与えてくださるものは、たとえそれが苦しみであろうと幸運であろうと神からの恵みだと考えて素直に受けとる心の持ち主は幸いだ、と解釈できます。

他者と苦楽を共にする奉仕の体験やボランティア活動は、講義室における知識の学習とならんで本学における学生生活の重要な柱をなすものだと考えます。知識によって世の中を知るだけでなく、キリスト教精神によって社会の現実を変革する体験にも積極的に挑戦してみてください。

新入生のみなさんへ

野村 佳世

児童教育学科2年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。青山学院女子短期大学の一員として、お迎えすることが出来、大変嬉しく思っております。

さて、これから始まる新しい生活に様々な期待や不安をかかえていることと思います。箴言16章9節には「人間の心は自分の道を計画する。主が一步、一步を備えてくださる」という箇所があります。私たちは神様を忘れて自分たちの意のままに生きようとしてしまいがちですが、神様はそんな私たちを正しい道へと導いてくださるのです。だからこそ常に主の導きを信じ、それぞれの目標に向かって積極的に歩いていくことが大切なのではないでしょうか。

私たち宗教活動委員会では、週に3回の礼拝を守ると共に、年間を通してたくさんの活動を行っています。4月には「春の研修・親睦会」と題して、新入生の皆さんと交流をもてる会を考えています。その他にも、夏と冬のキャンプやチャペルコンサートなども行います。様々な行事に参加することによって、感じ方は人それぞれだと思いますが、生きていく上での大いなる糧を得られると思います。また、普段交流をもつことのない他学科、他学年の学生や教員とも交流がもてる貴重な機会です。

もちろん誰でも自由に参加できるので、今までにキリスト教に触れたことがない人でも是非参加してみてください。



これが青山学院大学です

武藤元昭

大学学長



新入生のみなさんへ

田村寿子

経済学部経済学科3年



新入生の皆さん、御入学心からお祝い申し上げます。4年間で皆さんにとって心から満足出来るものとなるよう、一緒に努力して行きましょう。

さて、入学された皆さんの中で、クリスチャン或いは求道者はほんの一握りではないかと思えます。ほとんどの方は、キリスト教に馴染みがないことでしょう。しかし、多くの大学がある中でこの青山学院大学に入学されたということ自体、実は皆さんは既にこの大学に導かれていらっしやるのです。皆さんがこの大学を受験しようと考えられたのは、どういう理由からでしょうか。色々あるとは思いますが、多分、雰囲気は何となく良さそうだ、楽しい学生生活が送れそうだ、といったことも一つの理由だったのではないかと思います。それは的を射ています。その通り、青山学院大学はそういう大学でもあるからです。

但し、それは、青山学院大学が実体のない存在だということを意味しません。そうした雰囲気というものが、大学の母体である青山学院の130年余に亘る歴史と伝統から生まれてきたものだからです。キリスト教を建学の精神にもつ青山学院大学が営々として築いてきたものが、大学の雰囲気を作り出しているのです。皆さんは、この大学の歴史をよく理解し、この大学に入学された意味を考えてみて下さい。そうすれば、皆さんの大学生活は他の大学では味わえない、充実したものになることでしょう。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。神の導きの下、この青山学院に入学されたことを大変嬉しく歓迎いたします。

ご存知の通り青山学院はキリスト教主義学校として古い歴史があります。この時代の変化の中でキリスト教の学校として存在し続けてきたことは、何より神がその歩みを祝福して下さったからだと思います。また、多くの学院に関わる人たちの祈りと共に歩んできた学校とも言えるのではないのでしょうか。青山学院はスクール・モットーを「地の塩、世の光」として掲げ、これにはキリストの香りを放つ者が一人でも多く社会に出て行き、世の光としてキリストの光を伝える者であって欲しいという願いが込められています。

大学には、宗教センター直属の団体である、聖歌隊、ハンドベル、青山キリスト教学生会があります。この3団体は大学のキリスト教活動を支えるべく多くの奉仕活動を行っています。中でも私の所属している青山キリスト教学生会は、キリスト者、求道者が神の導きのもと集められ、聖書の学びや祈り、そして賛美の時をもっています。また地の塩、世の光として、学内の学生や学外にキリストを伝えるという大きな役割を負っています。

これからみなさんは、礼拝にも多く出席することになるでしょう。青山学院でのキャンパス・ライフを通じて、入学されたみなさんがキリストに出会い、キリストと共に歩む日々であるよう、心からお祈りしています。



『津和野への旅—長崎キリシタンの受難』

池田敏雄著 中央出版社 1992年

木村光彦

大学国際政治経済学部教授

だいぶ昔、大学に入った4月、私は下宿生活を始めた。板一枚で仕切られた3畳1間だった。部屋のちょうど頭の高さの板壁に、ひとり一人横になれる押入れのようなスペースがあり、そこに梯子で上り、寝た。はじめはなぜそんな所に「押入れベッド」があるのかいかにも不審だったが、しばらくして訳が分かった。その真下が隣室の同様のベッドだったのだ。つまり、2室の仕切り壁が己の字型になっており、私が上の段、隣人が下の段に寝ていたのだ。空間を最大限に有効に使い、一人でも多く下宿人を入れて稼ごうとする家主の深い知恵だった(下宿代は2食付きで月に1万と500円だったと記憶する)。その隣人が津和野出身で、名を池田君といった。

さて、なぜこのようなどうでもよい回想を冒頭に書いたかということ、ここで紹介する本の著者が池田さんという神父で、しかも内容が津和野に関係があるからである(もっとも、池田神父と池田君の間には、名前が一致する以外おそらく何の関係もない)。

徳川時代、キリシタンが厳しく弾圧されたことは広く知られている。幕末の開港後、その弾圧の中でひそかに信仰を守り続けた少数の信者の存在が、新たに来航したフランス神父によって明らかにされたことも旧聞に属する。しかしその後、彼らが大きな困難に直面したこと、とくに津和野がそのひとつの中心地であったことはあまり知られていない。簡単にいえば、明治新政府はキリシタン禁制政策を継承し、長崎で信仰を公にした信者の一部を津和野に送り、きわめて厳しい拷問を加えたのである。津和野送りを決定した中心人物は、維新三傑のひとり、木戸孝允であった。

本書は、信者が津和野でいかなる苦難に遭遇し、それをどのように克服したかを記す。ここでいう克服には、拷問死も含まれる。池田神父は拷問の実態を、当時の史料や本人の回想記から詳細に再現している。その残

酷さは、小学生時代、林間学校で夜墓場を巡る肝だめし大会が催されたとき、恥ずかしながら一番に逃亡し

た過去をもつ生来気弱な私(足は非常に速かった)の顔を青ざめさせるのに十分である。池田神父は、ホラー物語が趣味なのであるか? いや、そうではなく、神父は死に打ち勝つ信仰のすばらしさを訴えたかったのである。これは神父として当然のことである。神父が生涯独身を通すのも、すべてを神に捧げるためである。池田神父は心からの敬意をこめて、これでもかと言わんばかりに克明に弾圧の場面を描いている。

木戸孝允がキリシタン弾圧に荷担したという事実は、今まで私が抱えてきた木戸先生への尊敬をあつけなく打ち砕いた。しかし木戸先生はやはり、先見の明を有する人物であった。有名な岩倉遣欧使節団の一員として欧米事情を視察した結果、キリシタン禁制政策の愚を悟った。1873年、ついにキリシタン禁制の高札が信者の眼前から撤去された。さらにその後、1898年、伊藤博文が中心となって作成された明治憲法によって、信教の自由が認められた。以来、わが国においては、戦時中の一時期をのぞき、信教の自由が保障され、キリスト教伝道も自由に行われている。これはじつにすばらしいことである。しかし、この陰には徳川政権崩壊後もなお、一身を犠牲にする信仰の先達が存在したことを確かに記憶しなければならぬ。本書は、この歴史的事実を余すことなく伝えるのみならず、駄文に終始したこの紹介文からは想像もつかない深い精神性を秘めた貴重な書物である。



青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料

その15 — アメリカ・来日メソジスト宣教師の見た日本(続) —

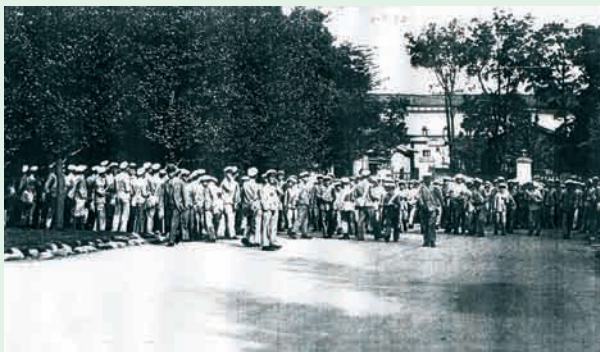
氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵キリスト教貴重文献・史料紹介第15回。今回は前回に引き続き当資料センター所蔵の写真史料を紹介します。これらはアメリカ合同メソジスト教会史料館(ニュージャージー州マディソン市のドゥルー大学構内)に保管されている宣教師史料のうち、日本伝道の傍ら、彼らが撮ったアルバム数十冊に及び写真の中から筆者がえらんでコピーしたものです。中でもブル宣教師(Earl Rankin Bull, 1911-26 日本伝道)はカメラマニアであったとみえて、彼の撮った写真は各ミッション・スクール、地方教会から、今ではもう見られなくなった民衆の生活や街頭風景など数百点に及んでいます。その中から今回は青山学院関係の写真数点と、街の風景を覗いてみることにしましょう。



① ブル宣教師宅でのバイブルクラス



② 青山学院正門前に集まった中学部の生徒たち



③ アーチェリーの授業 青山女学院



④ 青山学院野球部 大正期

まずブル宣教師夫人の自宅でのバイブル・クラス(写真①)。キリスト教のバイブル・クラスに集まった明治大正期の少女達の姿に、彼女達の息吹きが伝わって来そうな写真ですね。

次は青山学院関係。中学部の生徒達が正門附近に集まっているところです(写真②)。戦前の生徒達の雰囲気がよくあらわれています。旧制中学部の生徒はツメ襟の制服に白い鞆を肩からななめにかけていました。その次は青山女学院生徒の弓道の授業(写真③)。体育の授業に弓道(アーチェリー)が必修だったのです。次は大正年間の青山学院専門部(大学の前身)野球部(写真④)。中央の紳士は恐らく山本邦之助部長でしょう。青山学院大学野球部は2005年アマチュア日本一になりましたが、それはそれは長い道のりでした。1880年代(明治20年頃)アメリカ・メソジスト教会のブラックレッジ宣教師(James Blackledge)によって、日本で最も早い頃スタートした野球部でした。



⑤ 青山学院専門部寄宿舎

⑥ 田んぼの中でのキリスト教葬儀（九州）



⑦ 境内で遊ぶ
子どもたち



⑧ 子どもが子どもの子守り
北海道大沼公園



⑨ 施しを乞うハン
セン病親子

次は曾ての青山学院専門部の寄宿舎（学生寮）です（写真⑤）。現在の西門へ下る坂の途中、大学3号館附近にあって、関東大震災の時に流言飛語の犠牲となって迫害された朝鮮人（当時そう呼ばれました）を収容して救った建物です。

写真⑥は「九州で初めてのクリスチャンの葬儀」ということです。田んぼの中の葬儀で、珍しいでしょう。さて次は神社の空地。当時の子供達の恰好の遊び場でした（写真⑦）。輪になって遊ぶ子供達。こういう光景も、もう見られなくなりました。子供達の服装をよくごらん下さい。なつかしい風景ですね。そしてお姉さんの子守り姿（写真⑧）。本当に宣教師達はよくこういう光景を撮っておいたものと思います。

最後は神戸の路傍でのハンセン病親子（写真⑨）。1956年開催のローマ会議（「癩病患者の救済と社会復帰のための国際会議」）で、ハンセン病は癒る病気と認定され、日本の隔離主義は批判をうけ、開放治療を謳った「ローマ宣言」が採択されました。然し日本ではつい最近までハンセン病の差別政策がとられていました。この写真のような姿を宣教師は明治大正時代に日本の至る所で目にしたのでしょう。

以上、宣教師の撮った曾ての日本の風景です。

日本長老教会 井荻福音キリスト教会

河見 誠

女子短期大学教授

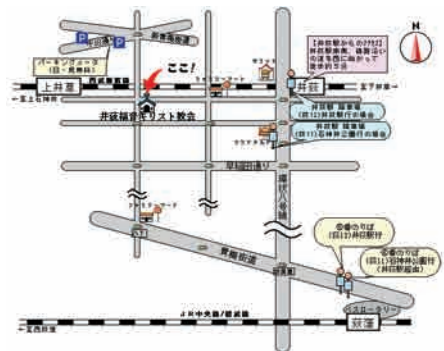
私の属している日本長老教会井荻福音キリスト教会は、西武新宿線井荻駅から線路沿い徒歩5分程のところにある、礼拝出席者30名前後の小さな教会です。1959年にCharles Cowin宣教師により、早稲田の大隈通りの新聞屋さんを間借りして始められた早稲田福音キリスト教会に端を発し、1960年に品田与志夫師、1964年に山口渚師と牧師が交代した後、1967年に杉並区井荻の地に移転しました。2000年に山口師が退かれるまで、ずっと単立の教会でしたけれども、2001年に日本長老教会に属することになり、現在は宇田進師（東京基督教大学名誉教授）と若い木村大介師が教職にあたっています。

以上、牧師中心に簡単な歴史を書きましたが、しかしプロテスタント教会のおもしろさは、牧師や長老だけでなく、教会に属する一人一人が教会の歴史の「リレー」の選手である、という点ではないでしょうか。それは、信徒一人一人がバトンを自分の手で受け取り、また自分の思いを託しつつ次に渡していく、全員参加型のおもしろさがあるリレーです。もっとも、バトンをもって走ることは、時々しんどく感じられます。それは多分、リレー（に勝つこと＝例えば教会成長）自体を目標にしてしまうからでしょう。しかし本来、教会という場で展開されるリレーは、（人間の側から見ると）「豊かに生きる」ということを目標にしたものだと思えます。バトンに託されるのは、キリスト者として各人なりに見いだした、より豊かに生きるためのヒントではないでしょうか。教会は、人が豊かに生きるヒン



トのバラエティあふれる宝庫であり、だからこそバトンをもって受け継がなければならないものなのです。

それでは井荻教会独自のバトンとはどのようなものでしょうか。私が受け取ったバトンの中心部分は、山口渚前牧師の次の言葉につきます。「何とかなるでしょう（ワツハツハ）」「まあいいでしょう（ワツハツハ）」。学生時代に洗礼を受け、大上段に構えた議論をしたりその割には進路でうろうろ迷ったりしていた私そして同世代の仲間を、山口師はこのキメ言葉をもって、いつも大らかに受け止めてくれました。赦しと自由。これがキリスト教会の醍醐味でしょう。そして井荻教会はそれを構えの大らかさと笑いで、そして教会音楽の天田繁師に導かれる賛美をもって体現する、というバトンを受け継いでいる教会なのであります。



幼稚園 より

40名の新入園児を迎えました。年中組、年長組の子どもたちも、一つ大きくなった進級の喜びと共に新しい一年の歩みを始めます。

始業礼拝

4月7日(金)

年中組、年長組の子どもたちと保護者が共に新学年度最初の礼拝を守ります。

入園式

4月12日(水)

新入園児と新入保護者の方々を迎え、在園児の歓迎の中、共に礼拝を守ります。

イースター礼拝

4月14日(金)

イエス様の復活をお祝いします。礼拝の後、子どもたちは卵探しを楽しみます。

母の日礼拝

5月11日(木)

お母様と一緒に礼拝を守り、大好きなお母様を与えてくださった神様に感謝する一日です。

ファミリーデー

6月10日(土)

保護者の方々と共に、神様に与えられた力を出し合って、楽しく過ごす一日です。

終業礼拝

7月14日(金)

一学期の日々を神様の守りのうちに過ごせたことを感謝します。

(教諭 生沼晴美)

初等部 より

初等部の新校舎建築第2期工事が終了し、新しい校舎で4クラス体制で新年度が始まります。10月には、新初等部礼拝堂の建築が始まります。長く親しんできた現礼拝堂で礼拝を守るのもあと1学期間となりました。一日一日を大切に礼拝を守りたいと思います。

児童祈祷会

低学年：毎週火曜日 高学年：毎週金曜日の8時～8時15分

自由に参加できる祈祷会で、聖書の輪読の後、小さなグループに分かれてその日の「祈りの課

題」を祈ります。

受難週祈祷会

4月10日(月)～14日(金)

イエス・キリストの十字架への苦しみを覚えて聖書を味わい、祈祷会を持ちます。

イースター礼拝

4月18日(火)

礼拝堂にて、イースターの礼拝を守ります。礼拝の後、イースターエッグをいただきます。

(宗教主任 小澤淳一)

中等部 より

春の教職員修養会

4月8日(土)

入学式の後、午後1時から嶋田順好先生(大学宗教主任・国際政治経済学部教授)を講師にお迎えして修養会を行います。

イースター礼拝

4月21日(金)

イースター特別礼拝を行います。説教者は日本基督教団渋谷教会牧師の藤村和義先生です。

母の日・家族への感謝の日礼拝

5月9日(火)

日本で最初に母の日礼拝を守り、それを広めたのは青山学院です。中等部では、そのことを覚え、毎年5月の第2日曜日前後に保護者の方々をお招きして、特別礼拝を行っています。説教者は山北宣久先生(日本基督教団総会議長・同教団聖ヶ丘教会牧師)です。

保護者聖書の会

今年度も月に一度、保護者の方々と共に聖書を学ぶ会を開きます。日時は「中等部便り」でお知らせいたします。

(宗教主任 西田恵一郎)

高等部 より

入学式、始業式

高等部は4月7日(金)に入学式を行い、新入生を迎えます。10日(月)に新入生オリエンテーション、11日(火)には全学始業式、またオリエンテーションが行われます。12日(水)は全学年英語テスト、生徒会による新入生歓迎

会が行われ、13日(木)から授業が開始されます。

イースター礼拝

今年のイースターは4月16日(日)です。高等部では翌日4月17日(月)にキリストの復活を祝って特別礼拝を行います。講師は渡辺善忠先生(巣鴨教会牧師)です。

保護者聖書の会

今年度も保護者の方々のための聖書の会を毎月一度持ちます。聖書に初めて触れる人たちの会ですので保護者であれば誰でも参加できます。具体的な日時は「高等部便り」でお知らせします。青山学院教育方針の基本にある聖書を学び、心の糧としていただきたいと思います。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大 より

キリスト教同盟校推薦入学生歓迎会

4月4日(火) 11:30～12:30

女子短期大学礼拝堂

始業礼拝

4月5日(水) 10:00

説教：ロバート・タヒューン宣教師
青山学院講堂

宗教活動委員会 春の研修・親睦会

4月22日(土) 10:00～15:00

女子短期大学校舎

キリスト教特別週間

5月22日(月)～26日(金)

宗教講演

5月24日(水) 12:30～13:20

女子短期大学礼拝堂

前期チャペルコンサート

5月25日(木) 12:30～13:20

女子短期大学礼拝堂

サマー・キャンプ・イン軽井沢

7月25日(火)～27日(木)

女子短期大学中軽井沢寮

(宗教活動委員 松本美鈴)

大学 より

キリスト教推薦入学生オリエンテーション

4月4日(火) ガウチャー記念礼拝堂他

キリスト教概論Ⅰオリエンテーション

4月5日(水)～4月8日(土)

ウエスレー・チャペル

新入生歓迎礼拝

・相模原：4月11日(火)～15日(土)

・第二部：4月11日(火)

宗教センター・グループ活動について

いずれの集也会も自由に参加することができます。

◎「青山学院大学聖書研究会」(宗教主任担当)

わかりやすく、楽しく聖書が学べます。

◎「フォーカス・グループ」(キリスト者教員担当)

文学、自然科学、社会問題、音楽などとキリスト教信仰とのかかわりにおいて語り合い、考え合います。詳しくは『キリスト教活動のしおり』『Kairos』をご覧ください。

(宗教センター事務室 平野修一)

本部 より

教職員新学年度礼拝

4月6日(木) 16:30～

ガウチャー記念礼拝堂

説教：嶋田順好 大学宗教主任

(宗教センター事務室 平野修一)

編集後記

「ウエスレー・ホール・ニュース」第88号をお届けします。ウエスレー・ホールは、メソジスト教会の創始者ジョン・ウエスレーよりその名を取り、1968年に幼稚園から大学までの学院キリスト教教育の拠点として献堂されました。「ウエスレー・ホール・ニュース」はそのウエスレー・ホール発信の機関紙(年4回発行)です。

青山学院には変わらない何かがある。それは学院関係者にとっていつまでも大きな誇りです。各部の教育が今年度もキリスト教信仰に基礎づけられた豊かなものとなるよう願ってやみません。第88号のためにご執筆くださった諸氏に心より感謝いたします。(伊藤)

Wesley Hall News 第88号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)
URL.<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集 ウエスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社